

<p>ぶどう搾り滓投与による養殖魚の品質向上-II 名倉盾</p> <p>ぶどう搾り滓は、赤ワイン用品種がポリフェノール量や水分含量から添加用に適していた。ニジマス小型魚では、ぶどう搾り滓及びポリフェノール純末添加区の成長・飼料効率・身の色・生体防御能・鮮度保持等が対照区より良好で、添加濃度は1%区が最も良かった。ニジマス大型魚では、ぶどう搾り滓添加区で成長・生体防御能・鮮度保持等が対照区に比べ有意に高かった。</p>	<p>サケ科魚類の新しい養殖対象種について-III 大浜秀規</p> <p>H23年産のニジノスケは、3nニジマス、2nニジマスと同様の成長を示し、飼料効率、成長倍率、死亡率等において良好な成績を示した。H24年産のニジノスケは、発眼率が良好であったものの、飼料効率、成長倍率がやや低かった。マスノスケも摂餌不良及び斃死が続き、飼育の難易度が高いと考えられた。平成25年に4nニジマスを用いてニジノスケを生産したが、発眼率が低く、ふ化仔魚の奇形が多かった。</p>
<p>マスノスケ釣獲時の引き方に関する試験 大浜秀規</p> <p>養殖業者から要望の高い、釣掘り用の魚について検討するため、遊泳力が強いと考えられるマスノスケについてニジマスと比較しながら釣り味の検討を行った。引く力の強さ、引き方に両者で違いは認められなかったものの、強い引きの回数、強く引く時間帯に違いがあり、マスノスケは釣り堀用の魚として、魅力ある釣り味を持っているものと考えられた。</p>	<p>当所産アユの継代数の違いによる釣られやすさの比較 — IV 加地弘一</p> <p>水産技術センター産のF3群とF8群アユについて、同数を放流し投網および友釣りによる捕獲を行い、両群の定着率と釣られやすさを比較した。放流後の両群の定着率は同程度であった。定着率には差がないものの分布に偏りが見られ、上流域にF3群が多い、もしくは下流域にF8群が多かった。F3群とF8群は投網では同程度捕獲されたが友釣りでは有意にF3群が多く、F3が釣られやすいもしくはF8群が釣られにくかった。</p>
<p>黒テグスによる魚食性鳥類の飛来防除対策の検討（短報） 谷沢弘将</p> <p>カワウ、アオサギについて黒テグスを使った防除対策の有効性について検討した。当所沈殿池にて黒テグスを2m間隔に設置し、ビデオカメラを用い、飛来数、滞在時間等観察した。アオサギについて設置前と設置後において1飛来あたりの滞在時間について有意な差が認められた。黒テグス設置後、池の中に入ってくることはほとんどなく、黒テグスを恐れたことによる忌避効果と考えられた。</p>	<p>カワウの繁殖抑制に使用する擬卵の簡易作成方法の検討（短報） 谷沢弘将</p> <p>紙粘土による簡易な擬卵の作製手法の検討を行なった。紙粘土擬卵は従来の石膏擬卵と比較して作成者によって形に個人差が生じ、また同じ作成者でも形が不均一になる欠点があった。しかし、作成にかかる費用、一度に大量に作成できる点は石膏擬卵より優れた。擬卵置き換え作業において、紙粘土擬卵を使用したところ、カワウ親鳥は本物の卵と間違え抱卵したことから、従来の石膏擬卵と同様に使用できる事が判明した。</p>

